

「スポーツチャンバラ実技研修会」 雨倉寿久（武蔵野小地区・4期目）

第8ブロックのスポーツチャンバラ実技研修会が6月20日、東大和市市民体育館第一体育室で行われた。第8ブロックは昭島市、立川市、国立市、東大和市、武蔵村山市のスポーツ推進委員で構成されている。

実技研修会は、スポーツチャンバラ東大和支部の拓心館中林五段と国分寺支部の根岸四段の指導の下で行われ、最初は礼の仕方と歩き方の訓練から始まった。スポーツチャンバラと言っても、古武道形式であるので床に正座をすることがあるが、皆さん普段はやらないので不慣れな方が多く、足の甲が痛くなり、顔をしかめている方が多く見受けられた。

次に防具を付けた基本型の訓練では、防具は顔まで覆えるヘルメットだけで、刀は柔らかい樹脂製のものである。

いよいよ一対一による打ち込みの練習に入ったが、それが終わると一対一の試合が始まった。何となく心がワクワクする。



私の相手は若い女性であったので、対戦前から楽勝と思っていた試合に挑んだ。ところが実際にはそんな甘いものではなく、結果は相打ちとなり、私が面を取ったものの、相手の女性に胴を取られてしまった。私としては不覚であったが、楽しく試合ができた。

最後に団体戦が行われた。敵、味方のどちらにも打ち込んでよいルールで、童心に返って誰もがはしゃいで楽しいひとときを過ごすことができた。指導していただいた二人の先生に感謝します。

また、実技研修会終了後には、5市のスポーツ推進委員による情報交換を兼ねた懇親会が行われた。

「昭島チャレンジデー2015」 小峰 隆（共成小地区・8期目）

1990年（平成2年）に国際的に認知されたイベントになったチャレンジデーは、毎年5月の最終水曜日に、世界中で一斉に行われる住民参加型のスポーツイベントです。日本では1993年から実施され、今年は全国で130の自治体に参加し、昭島市は今年で4回目となりました。人口規模が同程度の自治体同志が戦うもので『イベント参加率』（15分以上体を動かすこと）で競い、対戦相手に敗れた場合には、相手自治体の旗を庁舎のメインポールに1週間掲揚するというユニークなペナルティーが特徴と言えます。

スポーツ推進委員としては、PR活動として5月20日と26日の2日間、市内4駅頭で広報活動をしたり、27日の当日は、日本体育大学の野村先生と助手の小菅さんほか、学生数人とスポーツ推進委員4人で、10時から16時まで北文化公園での老人クラブ連合会を皮切りに、市内3か所の障害者施設で、スポ

ーツ・レクリエーション活動を行いました。

北文化公園には北川市長をはじめ、木戸教育長や山口生涯学習部長が出席され、市長や老人クラブ代表者のあいさつがあり、チャレンジデーイベントの開会式というような状況でした。チャレンジデーの結果は、昨年より多い8万5千人以上の市民が参加したものの、対戦相手の豊岡市には惜しくも負けてしまい4連勝を逃しました。

